

# 《総合科学部》社会創生学科地域創生コース

・ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。

| 科目名       | ディプロマ・ポリシー  | 【1. 知識・理解】  |   | 【2. 汎用的技能】                                   |  | 【3. 態度・志向性】   | 【4. 総合的な学習態度と創造的意欲】   | 科目の教育目標  |  |
|-----------|-------------|---|---|--|--|---|---|--|--|
|           |             | 21世紀型の地域づくりに必要な社会科学やメディアアート及び自然科学に関する幅広い知識と技能を習得し、地域社会で活躍できる。 | (1)正しい日本語の運用能力、すなわち文章を論理的に書き、理解する能力、他人とコミュニケーションする能力、プレゼンテーション能力を身につけている。 | (2)国際共通語としての外国語の基本的な運用能力とそれに基づく国際感覚を身につけている。 | 豊かな人間性、高い倫理観を身につけて、自分で問題を発見し、解決する態度を身につけている。 | 総合的な視点と知識を身につけ、現代社会の諸問題を柔軟に分析する能力と技能、情報発信能力を有し、社会の発展に貢献できる。 |   |  |  |
| 学科共通科目    | 社会創生学の基礎    | ◎   | ○   |  |  | ◎   | ◎   | 地域づくりに関する学問的諸課題やそれらにアプローチするさまざまな方法について理解する。  |  |
|           | 経済学の基礎 I    | ◎   |   |  | ○  |   | ◎   | 空間経済学をはじめとするミクロ経済学に関する文献に触れて現実問題への適用性を検討できるようにする。  |  |
|           | 社会学の基礎 I    | ◎   |   |  |  | ○   | ◎   | 私たちが暮らす「社会」とは、どのように成立しているのか？「社会的なもの」と「個人的なもの」とはどのような関係にあるのか？私たちの日常生活とマクロな社会の構造や変容とはどのような関連をもつのか？本講義では、社会学の基礎的な概念や理論を用いて、各々が日常的に経験している「社会」を理解する視座である「社会学的想像力」を養育することを目的とする。 |  |
|           | 社会学の基礎II    | ◎   | ◎   |  |  | ○   | ◎   | 社会学的な思考にもとづきレポートを書けるようにする。   |  |
|           | 生命科学の基礎     | ◎   |   |  |  | ◎   | ◎   | 生物は、さまざまな生体成分が密接に相互作用して「生きている」状態を維持している。本講義では、生命の単位である細胞と主要生体成分について、それらの構造と機能を理解させると共に、それらの代謝や制御機構を通じて、生命現象の基礎を学ぶことを目的とする。   |  |
|           | 法律学の基礎 I    | ◎   | ◎   |  | ○  | ◎   | ◎   | 人権意識を体得し、国家と個人、国家と国民との関係、さらには国際社会における人権はいかにあるべきか、についての洞察力を身につける。   |  |
|           | 地理学の基礎 I    | ◎   |   | ○  |  | ◎   | ◎   | 経済地理学の基礎理論を学び、社会現象を理論的・空間的に考察する能力を身につける。   |  |
|           | 文系数学の基礎     | ◎   |   | ○  |  | ○   | ○   | 人文・社会科学において求められる数学的な基礎知識を身につける。  |  |
|           | アート創生プロジェクト | ◎   |   | ○  |  | ◎   | ◎   | 芸術をキーワードにして私達の住む地域の活性化に貢献する。   |  |
|           | 化学の基礎       | ◎   | ◎   | ◎  |  |   | ◎   | 専門を通して、科学の諸分野を専攻する上で必要とされる、化学の基礎的内容を修得することを目的とする。  |  |
| 生命科学基礎実験  | ◎           | ◎   | ◎   |  |  | ◎   | 生命科学(生命現象)に興味を持ってもらう。生命科学系の実験を行う上で最低限必要な実験機器の操作法、基本的な技術などを習得してもらう。  |  |  |
| コース専門コア科目 | 地理学の基礎 II   | ◎   | ○   |  | ○  | ○   | ◎   | 日本および欧米地域の村舎・農村空間の成立過程について、時間的・空間的な展開の中で理解するとともに、地域的な差異の特徴について把握できるようにすること。  |  |
|           | 情報創生プロジェクト  | ○   |   | ○  |  |   | ◎   | ニーズを分析し、スマートフォンの特性を活かしたアプリが開発できるようにする。   |  |
|           | 社会統計学 I     | ◎   |   | ○  |  | ◎   | ◎   | 人文社会科学の実証研究に必要な統計学の基礎理論を学び、データ分析の実践的手法を習得する。   |  |
|           | 地域文化論 I     | ◎   |   |  | ◎  |   | ○   | 世界の諸民族の事例を通して人間の文化・社会の多様性と普遍性について考察し、異文化および自文化の構造や意味を客観的に理解するための視点を修得する。   |  |
|           | 地域政策論 I     | ◎   | ◎   |  |  | ○   | ◎   | ①国際化時代の地域経済と地域システムについての理解、②新たな時代における地域と環境の再生、産業づくりや地域づくりについて考察・解明できる能力を培う。   |  |
|           | 社会実働論       | ◎   | ◎   |  |  | ○   | ◎   | 自分で選択したテーマについて、文献を読んでデータを集め、レポートを書けるようにする。   |  |
|           | 福祉情報論       | ◎   |   | ○  |  |   | ◎   | 1. 現代社会で生じている社会福祉をめぐる問題への理解を深めるとともに、それを自分の問題として考えるためのきっかけを得ること。<br>2. 地域社会の中で生じている介護問題や児童福祉問題、障害者福祉問題への理解を深めるとともに、受講者自身が情報収集を行い主体的に情報を発信できる力を養成すること。                       |  |
|           | Webデザイン I   | ○   | ◎   |  |  | ○   | ○   | Web2.0によるインタラクティブなサイト構築に必要な知識と技術を習得する。   |  |
|           | 情報社会と情報倫理   | ○   |   |  | ○  | ◎   | ◎   | 現代社会における人、企業、物と「情報」との関わりについて基本的な知識と諸問題の理解を深める。   |  |
|           | 環境アート       | ◎   |   |  |  | ◎   | ◎   | 平面における絵画表現から空間を使い環境を意識した作品を作る。   |  |
| 日本語研究 I   | ○           |   |   | ○  | ○  | ○   | 日本語学領域の音韻・音韻・アクセントについての講義をする。日本語学各分野への関わり合いを行うことを目的とする。音韻学の研究成果を概観的に学習する。科学的視点での、もの見方、とらえ方などを音韻学の諸事例を参照検討することによって深める。 |  |  |
| コース専門選択科目 | 地域構造論       | ◎   |   | ○  |  | ◎   | ◎   | 都市地理学が扱う幅広いテーマについて学歴史をふまえた基礎的知識を学び、複雑な現象の背後にはたらく諸要因を理論的に検討する能力を身につける。  |  |
|           | 空間情報論 I     | ◎   |   |  | ○  |   | ◎   | 空間情報科学とそれを支えるGISについての概念や構造を理解して、基本的な操作技術を習得する。   |  |
|           | 空間情報論 II    | ◎   |   | ◎  |  |   | ◎   | 空間分析の計画から、データの収集、GISを採用した空間解析、結果の発表までを自ら実行できること。   |  |
|           | 地域実働論       | ○   |   | ○  |  |   | ○   | 総論・資料などを用いて、歴史地理学的な研究手法を修得することを目標としている。  |  |
|           | 地域環境論       |   |   | ○  |  |   | ◎   | 地形環境とその歴史的变化を理解し、将来の生活へ活かす。  |  |
|           | 地域文化論 II    | ◎   |   |  | ◎  |   | ◎   | 過去の、あるいは現代の日本社会における民俗文化の構造・機能・意味について深い考察を加える能力を習得する。   |  |
|           | 地域政策論 II    | ◎   |   |  |  |   | ◎   | これまでの地域をとりまく計画の歴史的な流れを把握しながら様々な地域課題の解決に向けた計画のあり方を習得する。   |  |
|           | 市民活動論       | ◎   |   |  |  |   | ◎   | この20年のあいだにグローバルに展開し、共有されてきた、同時代の市民・社会運動のスタンダードとなっているスタイルやメソッドを身につけます。  |  |
|           | 地域経済論       | ◎   |   | ○  |  |   | ○   | 地域社会の土台をなす地域経済の構成と動態を検討するとともに、地域問題解決のための理論と手法を修得することを課題とする。  |  |
|           | 日本経済論       | ◎   |   | ○  |  |   | ○   | 戦後日本経済の推移を面ごとに考察し、その構造と特質を明らかにする。  |  |
|           | 地域社会論       | ◎   |   |  |  |   | ◎   | 地域社会をより深く理解するため、地域社会学および都市社会学の基本的な考え方を理解し、自分にあった地域社会へのアプローチ方法を見出し、地域分析ができるようになること。   |  |
|           | 比較社会論       | ○   |   |  | ○  |   |   | ◎  | アメリカの憲法および社会について社会学的な分析視点を持ってもらったことを授業のテーマとする。   |
|           | 社会理論        | ◎   |   |  |  | ○   | ◎   | ◎  | 理論と現実の接点を通じて、理論的知識の適用方法を学ぶ。  |
|           | 経営学 I       | ◎   |   | ○  |  | ○   | ◎   | ◎  | 経営戦略論に関連する主要な概念や理論を習得し、それを応用しながら、実際に戦略を策定して実行するマネージャーの視点を持って経営戦略の諸問題を論理的に分析できるようにすること。                               |
|           | 経営学 II      | ○   |   | ○  |  | ○   |   | ◎  | 経営組織論に関連する主要な概念や理論(個人の動機づけ等のミクロの組織論から、組織設計を考へるマクロの組織論まで)を習得し、それを応用しながら、実際に組織を運営するマネージャーの視点を持って組織の問題を考へて分析できるようにすること。 |

|  |             |  |   |  |   |   |   |  |
|--|-------------|--|---|--|---|---|---|--|
|  | 社会統計学Ⅱ      |  | ○ |  |   |   | ◎ | この授業では地域社会とその実態を調査・分析するための多様な理論、視角、手法について議論することを目的とする。特に、地域社会、都市社会学の視点からの実証的な研究に関する基礎的な文献を取り上げ、実際の調査に必要な知識と社会学の想像力を身につけることを目指す。  |
|  | 地域調査法ⅠA     |  | ◎ |  |   | ◎ | ◎ | 文化人類学・民俗学視点から地域調査(フィールドワーク)・研究を進める上で必要な基本的知識と技法を修得する。  |
|  | 地域調査法ⅡA     |  | ◎ |  | ◎ | ◎ | ◎ | 文化人類学・民俗学視点から地域調査(フィールドワーク)・研究を進める上で必要な基本的知識と技法を修得する。  |
|  | 地域調査法ⅠB     |  | ◎ |  | ◎ | ◎ | ○ | 地理学的な地域研究の方法を理解し、地域調査に不可欠な基礎知識を身につける。  |
|  | 地域調査法ⅡB     |  | ◎ |  | ◎ | ◎ | ◎ | 地域調査を行うのに必要な地図に関する基礎知識・技法の習得。  |
|  | 地域調査法ⅠC     |  | ◎ |  | ◎ | ◎ | ◎ | 人文地理学的な地域研究の方法を理解し、社会調査・地域調査をおこなうのに必要な基礎知識を身につける。  |
|  | 地域調査法ⅡC     |  | ◎ |  | ◎ | ◎ | ◎ | 人文地理学的な地域研究の方法を理解し、社会調査・地域調査をおこなうのに必要な基礎知識を身につける。  |
|  | 地域調査法ⅠD     |  | ◎ |  |   | ◎ | ◎ | この授業では地域社会とその実態を調査・分析するための多様な理論、視角、手法について議論することを目的とする。特に、地域社会、都市社会学の視点からの実証的な研究に関する基礎的な文献を取り上げ、実際の調査に必要な知識と社会学の想像力を身につけることを目指す。  |
|  | 地域調査法ⅡD     |  | ◎ |  | ◎ | ◎ | ◎ | 社会調査・地域調査は、文化人類学・地理学・社会学といった実証主義的な学問における基本的な研究手法である。地域調査法ⅡDでは、社会学的手法を取り入れた調査(フィールドワーク)の基本的な理論と手法を修得することを目的としている。アンケート調査を企画・設計する際に必要な仮説と検証の考え方や検証をこなす上で、の実際的な問題点、データの整理や分析の手法、結果のまとめ方などを学ぶ。   |
|  | 地域調査法ⅠE     |  | ◎ |  | ◎ | ◎ | ◎ | フィールドワークに基づく社会調査の理論と方法を学ぶ。   |
|  | 地域調査法ⅡE     |  | ◎ |  | ◎ | ◎ | ◎ | フィールドワークに基づく社会調査の理論と方法を学ぶ。   |
|  | 地域調査法ⅠF     |  | ◎ |  | ◎ | ◎ | ◎ | 社会調査の概要を学び、調査に同行して基礎的な方法を身につける。  |
|  | 地域調査法ⅡF     |  | ◎ |  | ◎ | ◎ | ◎ | 社会調査の概要を学び、調査に同行して基礎的な方法を身につける。  |
|  | 地域調査法ⅠG     |  | ◎ |  | ◎ | ◎ | ◎ | 地域の問題とそのメカニズムを解明していくために必要な基礎的な方法論を学ぶ。  |
|  | 地域調査法ⅡG     |  | ◎ |  | ◎ | ◎ | ◎ | 地域の問題とそのメカニズムを解明していくために必要な基礎的な方法論を学ぶ。  |
|  | 地域調査法ⅠH     |  | ◎ |  | ◎ | ◎ | ◎ | 地域の活性化に欠かせない地域調査による研究方法や分析方法を学ぶ。   |
|  | 地域調査法ⅡH     |  | ◎ |  | ◎ | ◎ | ◎ | 地域の活性化に欠かせない地域調査による研究方法や分析方法を学ぶ。   |
|  | 地域調査演習A(前期) |  | ◎ |  | ◎ | ○ | ◎ | 文化人類学・民俗学的なフィールドワークに関する基本的な知識と技法を修得し、それらを地域社会の具体的な実践的な問題に対して応用し、的確な分析を行う能力を身につける。  |
|  | 地域調査演習A(後期) |  | ◎ |  | ◎ | ○ | ◎ | 文化人類学・民俗学的なフィールドワークに関する基本的な知識と技法を修得した上で、それを地域社会の具体的な実践的な問題に対して応用し、的確な分析を行う能力を身につける。  |
|  | 地域調査演習B(前期) |  | ◎ |  | ◎ | ◎ | ◎ | 地域調査の立案と設計、情報の入手、仮説と検証の手続きなど、地域調査を遂行するのに必要な技術と能力を習得する。   |
|  | 地域調査演習B(後期) |  | ◎ |  | ◎ | ◎ | ◎ | 地域調査の立案と設計、情報の入手、仮説と検証の手続きなど、地域調査を遂行するのに必要な技術と能力を習得する。   |
|  | 地域調査演習C(前期) |  | ◎ |  | ◎ | ◎ | ◎ | 地域調査の立案と設計、情報の入手、仮説と検証の手続きなど、地域調査を遂行するのに必要な技術と能力を習得する。   |
|  | 地域調査演習C(後期) |  | ◎ |  | ◎ | ◎ | ◎ | 地域調査の立案と設計、情報の入手、仮説と検証の手続きなど、地域調査を遂行するのに必要な技術と能力を習得する。   |
|  | 地域調査演習D(前期) |  | ◎ |  | ◎ | ◎ | ◎ | この授業では社会調査の手法を、実習の形式で修得することを目的とする。ここでは、特定のテーマを設定し、調査票を用いたサーベイ調査(アンケート調査)、個別の団体調査、インタビュー調査、既存の統計資料調査など、多様な手法を用い、対象となる社会現象を記述・分析し、報告書の執筆、調査対象地域でのプレゼンテーション、場合によってはまちづくりへの実践活動することを目的とする。調査の対象地域や課題に関しては、受講者と議論を通じて決めていきたい。また、本調査実習全体に関しては、地域調査法ⅡDで検討して決定するので、併せて受講することを希望する。今年度は、まちづくりを基本テーマとして、調査主体が、地域社会に役立つこと、学生が卒業後も、実習経験が実際の仕事に役立つようにしたい。つまり、学内の学生だけで完結するのではなく、常に対象者である地域社会とのインタラクションをもった「地域調査」を目指す。今のところ、以下のよう形を考えている。1.「地域の問題の振り返り」2.「地域の人のディスカッション」3.「調査票の設計」4.「調査」5.「地域でのプレゼン/実践」自分自身が中心市街地活性化に関があることから、特に受講者側からの希望があれば、地元商店街などを対象とした中心市街地活性化に関する聞き取りから始めていきたいと考えている。単にデータ的な調査票の作り方を学ぶのではなく、社会と関わり地域から学ぶことで、必要な知識を身につけて行くスタイルを取りたい。また、可能であれば、徳島市や周辺自治体とのパートナーシップで、自治体の政策形成のための基礎調査や、これまでの政策評価などを行い、行政への政策提言、TMO(まちづくり会社)やまちづくりへの支援・参加をしていきたいと考えている。いずれにせよ、何らかの形で、学外(地域)と関わり、評価が受けられるような調査実習にしたい。そして、このような授業を通して、地域社会に関わり、社会の問題が気楽に大学に持ちこまれる、シンクタンク機能と実践力をもった、緑の大学(地域調査実習)を目指そうと考えている。 |
|  | 地域調査演習D(後期) |  | ◎ |  | ◎ | ◎ | ◎ | この授業では社会調査の手法を、実習の形式で修得することを目的とする。ここでは、特定のテーマを設定し、調査票を用いたサーベイ調査(アンケート調査)、個別の団体調査、インタビュー調査、既存の統計資料調査など、多様な手法を用い、対象となる社会現象を記述・分析し、報告書の執筆、調査対象地域でのプレゼンテーション、場合によってはまちづくりへの実践活動することを目的とする。調査の対象地域や課題に関しては、受講者と議論を通じて決めていきたい。また、本調査実習全体に関しては、地域調査法ⅡDで検討して決定するので、併せて受講することを希望する。今年度は、まちづくりを基本テーマとして、調査主体が、地域社会に役立つこと、学生が卒業後も、実習経験が実際の仕事に役立つようにしたい。つまり、学内の学生だけで完結するのではなく、常に対象者である地域社会とのインタラクションをもった「地域調査」を目指す。今のところ、以下のよう形を考えている。1.「地域の問題の振り返り」2.「地域の人のディスカッション」3.「調査票の設計」4.「調査」5.「地域でのプレゼン/実践」自分自身が中心市街地活性化に関があることから、特に受講者側からの希望があれば、地元商店街などを対象とした中心市街地活性化に関する聞き取りから始めていきたいと考えている。単にデータ的な調査票の作り方を学ぶのではなく、社会と関わり地域から学ぶことで、必要な知識を身につけて行くスタイルを取りたい。また、可能であれば、徳島市や周辺自治体とのパートナーシップで、自治体の政策形成のための基礎調査や、これまでの政策評価などを行い、行政への政策提言、TMO(まちづくり会社)やまちづくりへの支援・参加をしていきたいと考えている。いずれにせよ、何らかの形で、学外(地域)と関わり、評価が受けられるような調査実習にしたい。そして、このような授業を通して、地域社会に関わり、社会の問題が気楽に大学に持ちこまれる、シンクタンク機能と実践力をもった、緑の大学(地域調査実習)を目指そうと考えている。 |

コース専門選択科目

|               |   |   |   |   |   |   |  |
|---------------|---|---|---|---|---|---|--|
| 地域調査演習E(前期)   | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | グループで社会調査を実施し、研究報告書を作成する。  |
| 地域調査演習E(後期)   | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | グループで社会調査を実施し、研究報告書を作成する。  |
| 地域調査演習F(前期)   | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 調査の実践を学ぶ。  |
| 地域調査演習F(後期)   | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 調査の実践を学ぶ。  |
| 地域調査演習G(前期)   | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 地域の問題とそのメカニズムを解明するために必要な地域調査を学ぶ。   |
| 地域調査演習G(後期)   | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 地域の問題とそのメカニズムを解明するために必要な地域調査を学ぶ。   |
| 地域調査演習H(前期)   | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 研究手法や分析手法の基礎を学ぶ  |
| 地域調査演習H(後期)   | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 調査結果を分析する際の方法を学ぶ   |
| 地域総合演習        | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 受講者が関心のもてるテーマやトピックを選び、その関連の文献を査読し、それをもとに討議する形式をとる。同時に、文献や資料の採り方、調査方法、分析方法、論文の構成など、論文作成の「基本」を勉強する。  |
| 地域総合演習        | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 1. 福祉社会学および医療社会学に関する学術論文を批判的に読解する能力を養成する。<br>2. 卒業論文の執筆に向けた論文作成能力を養成する。  |
| 地域総合演習        | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 本授業では、文化人類学・民俗学的手法を用いて地域研究を進めようとする学生を対象としている。受講者は文化人類学・民俗学の基礎概念を修得するとともに、自ら研究テーマを設定し調査研究を実施、授業中の発表・討議をふまえて研究内容の深化をはかる。   |
| 地域総合演習        | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 自ら設定した課題の解明に向けての調査・分析観察能力やレポート論文執筆能力、プレゼンテーション能力の修得を目標としている。   |
| 地域総合演習        | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 自ら設定した課題の解明に向けて調査分析をおこない、レポートや論文を執筆し発表力あるプレゼンテーションができる。  |
| 地域総合演習        | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 社会科学的な思考様式を自家糧中のものとする。そのため、社会学的な理論の現実への応用に資する文献、特定の課題に関する文献を網羅的に購読し、読解力と思考力を養う。  |
| 地域総合演習        | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 前後期を通じて、現代社会に対しての社会学の視点と社会問題を解決する力を身につけることを目指す。前期は、文献調査を通じて、現代社会の問題点に関する基本的な社会学の視点を習得し、後期は、まちづくりを題材に、実践的な知を身につけることを目指す。  |
| 地域総合演習        | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 歴史地理学や農村地理学の研究分野の中から研究テーマを主体的に選び、適切な方法による調査や分析をおこない、卒業論文にまとめることができる。   |
| 地域総合演習        | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 調査分析を通して最終的に何らかの「計画提案」を地域に還元する。  |
| 地域総合演習        | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 学生主体で社会調査を計画・立案・実施・報告する。   |
| 憲法            | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 人権意識を体得し、国家と個人、国家と国民との関係がいかにあるべきか、についての洞察力を身につける。  |
| 民法Ⅰ           | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 契約法が社会において果たしている役割を理解する。<br>①民法の法体系の特定、②公序・公徳・信義則といった社会問題に対して法がいかに対応してきたのかを理解する。   |
| 財政学Ⅰ          | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 1. 財政の現状を理解する。2. 財政学の基礎的理解を得る。   |
| 行政法Ⅰ          | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 本授業では、行政法に共通する一般理論(行政法総論)のうち、行政法の基本原理、現代型行政システムである行政手続、情報公開、典型的行政法システムである行政行為について説明し、行政法の基本的理解を獲得することを目的とする。   |
| 国際関係論Ⅰ        | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ①国際社会の性質、特徴を理解すること。②平和と戦争をめぐる現代の諸問題について、歴史的な背景、実態を知ること。③国際政治と国際法の基本について、考え、原理、原則を把握すること。④冷静な現実主義と「高潔な理想主義」の両方を意識した発想ができること。⑤外向きの広い視野を持つこと。   |
| ミクロ経済学Ⅰ       | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ミクロ経済学を応用して現実経済を分析できる力を習得することを目標とする。   |
| ミクロ経済学Ⅱ       | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 標準経済学のミクロ理論について精進する。   |
| マクロ経済学Ⅰ       | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | この授業では、皆さんがこれから社会人として必要となる経済学の知識を教えることを目的としている。マクロ経済学から出発し、経済全体のメカニズムを学習した上、我々の生活に密接に関連する国の金融政策と財政政策についても時間を割きながら解説する予定である。  |
| マクロ経済学Ⅱ       | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | この授業では、皆さんがこれから社会人として必要となる経済学の知識を教えることを目的としている。マクロ経済学から出発し、経済全体のメカニズムを学習した上、我々の生活に密接に関連する国の金融政策と財政政策についても時間を割きながら解説する予定である。  |
| 社会心理学         | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 人間の社会的行動に関する一般知見とその近年の展開について理解する。  |
| コミュニティ心理学     | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 予防教育、治療的介入、社会復帰支援といった一連のプロセスについて理解し、柔軟な心理的援助を行うための知識を身につけることを目標とする。  |
| スポーツ社会学       | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 地域における身体活動である住民の健康体力づくりやスポーツ行動に注目し、人間のWell-beingという視点から、「人間-身体活動(スポーツ)-社会」の関係を探求する。また、地域の健康文化の発展や住民のスポーツクラブの育成といった継続的な健康体力づくりをわらしたコミュニティ設計の意義や問題点について理解し、住民利用者の運営参加と意識による健康体力づくり事業の推進のあり方について学習する。 |
| スポーツマネジメント論   | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 本授業では、スポーツマネジメントを推進するための専門的知識について学習する。具体的には、学校、地域、民間、公共スポーツ施設組織等といった個別組織におけるスポーツ事業の構成方法や演出方法についての理解を深めるとともに、生涯スポーツの発展を図る為の効率的・効果的な経営過程についても理解を深めていくことを目的とする。                                       |
| 比較文化研究        | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 比較文化研究についての理解とその方法の習得。多文化社会と文化変容への理解を深めること。  |
| 異文化間コミュニケーション | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | (1)受講者自身が自らの文化に気づく。<br>(2)多様な価値観を認める心的素地を形成する。<br>(3)異なる価値観を持った人々と実際にコミュニケーションしていく為の具体的方法を学ぶ。  |
| 環境マネジメント論     | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 個人のライフスタイルや企業の取り組みが、よい地域環境や地球環境を創造することにつながることを理解する。  |
| 環境政策論Ⅰ        | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 環境政策の体系的理解   |
| 環境経済学         | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 経済学における分析的な思考を身につける。   |
| 自然保護論         | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 自然保護の意味や実情を理解し、どのような取り組みを行えば良いか、またどのようなことに留意すれば良いかについて考える。   |
| 計画の論理         | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 社会基盤施設の定義と特徴、計画の策定過程、計画の目的と目標、計画における学習と評価の考え方や手法を理解し、社会資本施設整備計画の立案に必要な基礎知識を身につけることを目的とする。  |
| 都市・交通計画       | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 1. 都市計画に関する基礎的な知識を修得する。2. 交通計画に関する基礎的な知識を修得する。   |

コース専門選択科目

|              |   |  |   |   |   |   |   |
|--------------|---|--|---|---|---|---|---|
| 環境を考える       | ◎ |  |   | ○ |   | ◎ | 政策、国土開発の変遷と関連を通じ、公害から地球環境問題に生じる特種、取組みや環境倫理について理解させ、環境問題を捉えることによる、技術者となる基礎的な知識、考え方および取りまめ方を習得させる   |
| 地域の防災        | ○ |  | ○ |   |   | ○ | 1.種々の自然災害の特性と防災対策の基本を理解する。<br>2.防災計画の枠組みと防災を進める上での要点を理解する。  |
| 生態系の保全       | ◎ |  | ◎ |   | ◎ | ◎ | 健全な社会基盤を整備する上で、生態系を保全することがなぜ重要なのか、およびそれをどのような考えのもとで行っているのかについて、基礎的な概念を身につける   |
| 情報創生演習       | ◎ |  | ○ |   |   | ◎ | コンピュータプログラムを実践の課題に適用することを通して、高度なIT技術、問題解決能力、そしてプレゼンテーション力を身につける。  |
| 芸術創生基礎演習     | ◎ |  |   |   | ◎ | ○ | 芸術をキーワードにして私達の住む地域の活性化に貢献する。  |
| WebデザインⅡ     | ◎ |  | ◎ |   | ○ | ○ | 各自Webサイトの構築と運営、webを活用した表現の発表。   |
| 情報総合プログラミングⅠ | ◎ |  |   |   | ◎ | ◎ | 情報処理の基礎知識と技術を習得する。  |
| 情報総合プログラミングⅡ | ◎ |  |   |   | ○ | ◎ | プログラミング言語に関する応用的な知識、技能を身につける。   |
| 言語情報処理研究Ⅰ    | ○ |  | ◎ |   | ◎ | ◎ | 言語を客観的に観察し、自分で基礎的な分析ができるようになる。特に音声学・音韻論を中心に指える。   |
| 言語情報処理研究Ⅱ    | ◎ |  |   | ◎ | ◎ | ◎ | 言語コースとは何かを理解する。また、コンピュータのツール、Linuxコマンド、プログラミング言語(Python)を利用して言語コースを分析する技能を身につける。  |
| 映像情報プログラミングⅠ | ○ |  |   |   | ◎ | ○ | CG言語を用いて簡単なプログラムを作成できるようになる。  |
| 映像情報プログラミングⅡ | ○ |  | ○ |   |   | ◎ | OpenGLによるインタラクション手法、アニメーション手法を習得する。   |
| 芸術研究演習ⅠA     | ○ |  |   |   | ◎ | ○ | 絵画表現を広げ深める。   |
| 芸術研究演習ⅠB     | ◎ |  | ◎ |   |   | ◎ | 1.映像制作の基本を理解する。映像機器や編集機器の扱いが出来るようになる。<br>2.造形言語の基本を理解し、メディアコンテキストの読み解き能力や制作能力を身につける   |
| 芸術研究演習ⅡA     | ○ |  | ○ |   |   | ○ | 木版画の制作ができるようになる。  |
| 芸術研究演習ⅡB     | ◎ |  | ◎ |   |   | ◎ | 1.映像制作の基本を理解する。映像機器や編集機器の扱いが出来るようになる。<br>2.メディア表現に関わるテクニロジーやデザイン表現手法に親しみ、実践手法を身につける   |
| メディア情報演習ⅠA   | ○ |  |   |   |   | ◎ | この授業ではイベント駆動型3次元アニメーションの制作を通して、OpenGLによる3次元グラフィックスのプログラミングの基礎を学ぶ。   |
| メディア情報演習ⅠA   | ◎ |  | ○ |   |   | ○ | インタラクションデザイン、ヒューマンインタフェースの立場から、地域支援技術(コミュニティテクノロジー)の開発や研究のための基礎知識、技能等の習得、開発演習、地域実践などに取り組む。  |
| メディア情報演習ⅠB   | ◎ |  | ◎ |   |   | ◎ | メディアアート表現の理解と作品制作   |
| メディア情報演習ⅡA   | ◎ |  | ○ |   |   | ◎ | 従来の技術主導型のメディアではなく人間主体のメディアをデザインするためにはどのような視座が必要になるかを、技術動向を踏まえつつメディアの役割方々に重点を置き考える。  |
| メディア情報演習ⅡA   | ◎ |  | ○ |   |   | ◎ | 地域支援技術(コミュニティテクノロジー)を、地域ニーズと課題解決の視点から、具体的な、開発現場を行うICT(情報通信技術)による特色/魅力ある発展づくりの実践にも取り組む。  |
| メディア情報演習ⅡB   | ◎ |  | ◎ |   |   | ◎ | メディアアート表現の理解と作品制作   |
| 言語情報演習Ⅰ      | ◎ |  | ◎ |   |   | ◎ | 情報を読み解くための知識や技術を身に付ける。また応用する。   |
| 言語情報演習Ⅰ      | ◎ |  | ◎ |   | ○ | ◎ | Perfを用いたCGプログラミング等について研究を進め、卒業研究に向けて準備を進める。   |
| 言語情報演習Ⅱ      | ◎ |  | ◎ |   |   | ◎ | 情報を読み解くための知識や技術を身に付ける。また応用する。   |
| 言語情報演習Ⅱ      | ◎ |  | ◎ |   | ○ | ◎ | Perfを用いたCGプログラミング等について研究を進め、卒業研究を完成させる。   |
| メディア情報論      | ◎ |  | ○ |   | ◎ | ◎ | 情報メディアにおける表現の歴史と現状を理解する。  |
| 映像デザイン       | ◎ |  | ◎ |   | ○ | ◎ | デザインに関する幅広い知識、理解を深める。<br>21世紀型の能力感を映像・デザインの実践を通して獲得する構造を理解する。<br>映像言語を活用し、視覚情報によるコミュニケーションができるようになる。<br>映像制作を通して、豊かな人間性・倫理観を獲得するための情報や感性の仕組みを理解する。  |
| アート表現基礎      | ◎ |  | ○ |   |   | ◎ | 絵画表現をする上で基礎となる力を養う  |
| 工芸表現と技法      | ◎ |  | ○ |   |   | ◎ | 工芸と絵画表現の違いは、絵画や彫刻のような純粋芸術が生活の中で使用目的を全く持たないことに対して、工芸品は陶芸、手芸、木工などのように日常生活における使用目的を持った要素が多くなる。しかしながら、最近のすぐれた現代工芸は使用目的から離れ、芸術家に近い行っている。そのような現代工芸のあり方を探ると共に、工芸の実技を通して、素材への理解や道具を使用する基本的な能力を養う。 |
| 彫刻研究         | ◎ |  | ○ |   |   | ○ | 造形芸術に関する表現活動における彫刻分野の基礎的な知識や表現能力の習得を目指し、制作実習の授業を行い、立体彫刻への理解を深めたい。   |
| 美術概論         | ◎ |  |   | ○ |   | ◎ | 日本美術を中心とした絵画、彫刻、工芸等の具体的な作例に則して、日本美術と東洋美術、さらには西洋美術との関係を話し、その背後にある文化思想の特性を浮き彫りにする。  |
| 英米言語研究Ⅰ      | ◎ |  | ◎ |   |   | ◎ | 英語の歴史ならびに現在、世界で使われている英語の諸相について理解を深める。   |
| 英米言語研究Ⅱ      | ◎ |  | ◎ |   | ○ | ◎ | 音声、綴り分析、談話分析等、英語についての研究法を学ぶ。  |
| 英米言語研究Ⅲ      |   |  | ○ |   |   | ◎ | 日英、英米圏に侵している「ことば」を「認知言語学」という新たな視点から見直し、無意識の内に働いている認知システムを明らかにする手がかりとなる言語資料を、受講生自ら収集、分析できるようにすることを目標とする。   |
| 英米言語研究Ⅳ      |   |  | ◎ |   |   | ◎ | 英語の統語分析の基本を理解すること。  |
| 日本語研究Ⅱ       |   |  | ○ |   |   | ○ | 「方言」について正しい認識を持つ。また、言葉や体系の面で考えることの必要を理解する。  |
| 日本語概説Ⅰ       | ○ |  | ◎ |   |   | ○ | 日本語の敬語一般の基礎的な知識を身につけると、敬語や敬語表現について取り上げ、日本語の敬語について理解することを目標にする。ものの方、とらえ方などを日本語学上の諸事例を参照・検討することによって深める。   |
| 日本語概説Ⅱ       |   |  |   |   |   | ○ | 古代から近現代までの日本語にどのような変化が、なぜ起こったのかについて、基本的なことがらを理解し、言語変化を科学的に考える態度を養う。   |
| 日本語演習        | ○ |  | ◎ |   |   | ○ | 日本の一地域においてフィールドワークを行い、調査によって得られたデータの処理の方法として、「方言データベース」/「音声データベース」の構築方法について学ぶ。  |
| 日本語演習        |   |  | ○ |   |   | ○ | 中世前期日本語の文献資料解説を通して、日本語研究の方法を身につける。自ら調査する過程に於いて、音声、先行研究、その他参考文献等の適切な利用方法、探索方法を学ぶ。  |
| プログラミング演習Ⅱ   |   |  |   |   | ◎ | ○ | さまざまな問題を解決するためのアルゴリズムを考案し、CG言語でプログラミングできるようにする。   |
| 制御概論         |   |  |   |   |   | ○ | 制御微分方程式の解軌道と安定性を調べ、固有値の設定ができるようになること。   |
| 数値計算法        |   |  | ○ |   |   | ◎ | いくつかの数値計算法の手法を実験に使い、必要に応じて更に新たな方法に習熟できるようにする。   |
| データベース基礎論    |   |  | ○ |   |   | ◎ | 1.リレーショナルデータベースの理論的事項を理解すること。<br>2.データベースを構築できること。<br>3.SQLの基本的事項を習得し、データベースへの質問文をSQLで書くことができる。   |

|           |                  |   |   |   |   |   |  |  |
|-----------|------------------|---|---|---|---|---|--|--|
| コース専門選択科目 | 最適化論             |   | ○ |   | ◎ | ◎ | 基礎的な最適化手法が使える。   |  |
|           | コンピュータグラフィックス基礎論 |   |   |   | ◎ |   | コンピュータグラフィックスに関する概念や理論、特にCGの基本として使われる数学的手法について論じる。また理論を学んだ後に随時プログラムも行う。        |  |
|           | 情報と職業            | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 情報社会におけるビジネス、職業に関する基礎知識を学び、職業観、就労・労働の意識の形成、キャリアデザインに役立つキーコンピテンシー、ICT活用力を身につける。 |  |
|           | 経済法Ⅱ             | ◎ | ○ | ○ | ◎ | ◎ | 知的財産法の基本的レベルでの理解と、関連問題に対する法的検討能力の取得。   |  |
|           | 商法Ⅱ              |   |   |   |   |   | ◎  | 株式の内容、種類株式、企業の資金調達等について講義を行う。                          |
|           | 地域計画             | ◎ |   |   |   | ◎ | ◎  | 地域を計画する際の基礎的知識を取得していることを前提に、実際の現場で必要とされる思考や手法について習得する。 |